

豊の大むかし

むかし 大むかし

みんなの くらしを よくするために

大彦命がみやこから

角鹿津(敦賀)今庄(今庄)船場(八田)まで来

られたが、東の方は大きな沼だった

船場から船に乗って鳥井の山に立ちよられ

兵をととのえ 楯板立てて

軍の神様をお祭りし

戦いに勝つように祈られて

大山(王山)に向われたということ

大山御板神社(春日神社)が建ったという

鳥井から船に乗り 大山(王山)のふもとへ

船を着けられた



船を着けたつとこと
舟津の地名がついたという

大彦命は王山で刃向かう人と戦って
やつつけた矢が 佐波乃矢という

鯖のしっぽに似た佐波矢から
この地は鯖矢になったとか

鯖矢がなまって鯖江の地名になったという
そのころ 豊は沼の底

東は三里山の山腹の岩に波が寄せていた
西は三床山の岩立に

見上げるばかりの岩山が
屏風のように立っていて

波を
けていた

男大迹王(後の継体天皇)は
この沼を豊かな土地にと考えて

広い広いこの沼の水を 三国の方へ流された。

沼は乾いて超えた土地

越前平野が生まれたという

山に住んでいた人たちは
山から里へと降りてきた

田んぼを耕し 畑をつくり
山から里へと移り住む

きつねも むじなも きじたちも
山から里へと移り住む

とおい 豊のむかしのものがたり

